

改訂2版<補訂版>
公共工事
発注者のための
コンプライアンス

目次

本編



第1章 ● なぜ今コンプライアンスが必要か	1
第1節 コンプライアンスとは何か	1
1 コーポレート・ガバナンスとの関係.....	1
2 CSR(企業の社会的責任)との関係	2
第2節 最近の社会経済環境の変化	3
1 日本人の従来意識構造.....	3
2 最近の社会経済環境の変化.....	3
第3節 違法行為・不祥事の発覚の可能性の増大と厳しい制裁	5
1 違法行為・不祥事に対する社会的非難.....	5
2 発覚する可能性の増大.....	5
3 厳しい制裁.....	6
第4節 公共工事等の発注者が関与した不祥事の事例	9

第2章 ● 公共工事発注者が遵守すべきルール	22
第1節 公共工事発注者の守るべきこと	22
1 公共工事発注者の使命.....	22
2 公共工事発注者の心構え.....	23
第2節 建設業法	24
1 工事発注者等が守るべきルール.....	24
2 公共工事の請負契約の締結等に関するルール.....	25
第3節 公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律	43
1 内容.....	43
2 対象となる発注機関.....	45
3 適正化指針.....	46
第4節 公共工事の品質確保の促進に関する法律	53
1 内容.....	53
2 対象となる発注機関.....	54
3 基本方針.....	54
第5節 官製談合防止法	58
1 制定の背景及び目的.....	58
2 対象となる発注機関.....	60
3 入札談合等関与行為.....	60
4 手続き.....	61
5 職員による入札等の妨害の罪.....	62
第6節 刑法	63
1 収賄罪.....	63
2 入札妨害、談合に関する刑罰.....	65
第7節 独占禁止法	67
1 内容.....	67
2 入札談合.....	67
第8節 暴力団対策法等	72
1 内容.....	72
2 建設工事からの暴力団の排除.....	73
3 暴力団排除条例.....	74
第9節 公益通報者保護法	77
第10節 国家公務員倫理法	81

第3章 ● コンプライアンスの実践	84
第1節 組織としての倫理の確保の必要性	84
1 倫理意識の高い組織風土の構築.....	84
2 内部通報制度.....	85
第2節 コンプライアンス・プログラム策定の必要性	86
1 コンプライアンスの不徹底がもたらす損失.....	86
第3節 コンプライアンス体制の具体的な取組み	88
1 効果的なコンプライアンス・プログラム.....	88
2 効果的なコンプライアンス体制の取組み.....	89
第4節 コンプライアンス・マニュアルに盛り込むべき内容	92
1 トップによる法令遵守の表明.....	92
2 職員の行動基準.....	93
3 違反者に対する措置.....	93